

学籍番号 氏名

本人の希望:「ズボンの脱衣をもう少し早くできるようになりたい」

1. 両手が同時に使用できないために、ズボンを脱ぎ易いように広げることができず時間がかかっている。これは、後方、側方への重心の移動時に平衡反応が出現せず、手で支えことで、一側臀部を上げて臀部からのズボンの脱衣を可能にするためである。そのため、手で支えなくても、側方への重心の移動が可能になることが治療の課題となる。
2. 下肢を体幹に近づけると、後方への重心の移動が生じるために、バランスが崩れ、転倒するため、本人は、屈曲姿勢を強めることで後方への転倒を防御する。この行為が、痙直型特有の屈曲痙性(連合反応)を強める結果となっている。そのため、体を下肢に近づける運動をスムーズに行えるか、後方への重心の移動が安全に行えることが治療の課題である。
3. 後方や側方への急激で強い重心の移動は、全身の屈曲痙性を強め、特に肩関節の屈曲と肘関節の屈曲のROM制限を招く結果となる。
4. 負けず嫌いの性格は、学校生活場面であせりと努力につながり、上記の否定的側面を生活場面で解決していく援助(学校生活での環境の整備)を実施するなかで、関節制限につながるような無駄な努力を軽減させていくことが必要である。
5. 1,2の治療の課題について肯定的側面を活用できるように、治療計画を立案する

治療目標

1. 長期目標: 学校生活の生活環境のなかで、ズボンの脱衣を今より早く行えるように援助する。
2. 短期目標: 1)側方のバランスの崩れに対して体を保持して、両手活動ができる
2)後方のバランスの崩れに対して姿勢を保持できる
後方のバランスの崩れに対して手で支えることができる
3)体幹を下肢に近寄せて、足先まで手が REACH できる
4)臀部からズボンを脱ぐときの体重移動を両側1回ずつで脱衣が可能になる

治療プログラム

1. 目的: 側方のバランスの崩れに対して屈曲痙性を抑制して体を保持する。
1)方法: 治療姿勢: 後方を壁にして後方への転倒を防ぐ長座位。(図)
活動: フーセンのキャッチボール(図)
セラピスト:側方へフーセンを誘導し、肩関節 90° 程度の屈曲活動
期待する反応:促通—体重支持側の体幹の伸展とフーセンの把持
抑制—下肢の屈曲の連合反応、骨盤の後傾位
2)期待する反応の観察と記録: 働きかけの回数とそれに対比させて反応を記述する